

カンボジア 2008 年人口センサス指導員・調査員研修の状況 (メモ)  
Mondul Kiri 州 -

1. 指導員・調査員研修視察への同行者

Mr. Om Khom, Director of Planning Department, Mondul Kiri  
Mr. Hun Vanara, Deputy Director of Planning Department, Mondul Kiri  
Mr. Oeu Sohal, Bureau Chief, National Institute of Statistics (Regional Officer)  
Mr. Vann Khorn, National Institute of Statistics (Assistant Regional Officer)  
Ms. Mom Bunna, National Institute of Statistics (Assistant Regional Officer)  
Mr. Kim Net, Bureau Chief, National Institute of Statistics (NIS, Counterpart)  
Mr. Katsuo Kogure, JOCV/NIS

2. 指導員・調査員研修視察の日時

2008年2月21日 午前8時～

3. 指導員・調査員研修視察の場所

Senmonorom District, Mondul Kiri 州

Mondul Kiri 州は、首都プノンペンから東へ約 350km のカンボジア東部に位置し、ベトナム国境に接している。州都のある Senmonorom District は、標高約 750m、カンボジア唯一の高原都市で、避暑地としても利用可能な所である。州の人口は 32,407 人で、人口密度は 2 人/km<sup>2</sup>(1998 年)。

4. 指導員・調査員研修の概要

計画省統計局 (NIS) は、2008 年 3 月 3 日午前零時現在をもって、カンボジアの全国民 (外国人を含む) を対象とした人口センサスを実施する予定である。2008 年人口センサスは、1990 年のカンボジア和平成立以後、1998 年以來第 2 回目となる。

今回の指導員・調査員研修は、2008 年 2 月 11 日～22 日にかけて、2008 年人口センサスの直前にカンボジア全土 250 か所で各 2 回 (1 回 5 日間) 実施された。本来は、500 人の研修講師 (TOT) がいるので、500 か所で実施される予定であったが、研修場所の確保が難しいため、250 か所で 2 回に分けて実施されたものである。

指導員・調査員約 3 万人 (約 5%の予備調査員を含む) は、主に教員や公務員で構成されており、全体の半数以上が、前回の 1998 年人口センサスを経験している。

なお、TOT は、州計画局職員や郡計画事務所職員で構成されており、昨年 12 月に NIS 職員を講師として、TOT 育成研修が実施された。

今回の出張では、Mondul Kiri 州の州都である Senmonorom District 及び Pich Chenda District で各 1 か所ずつ、研修場を視察した。研修場は、1 つが州政府庁舎内の会議室で、もう 1 つは小学校の教室であった。研修を受ける指導員・調査員は、それぞれ 20 名程度で、外見では比較的若い人が多く、女性も数名含まれていた。また、指導員・調査員は、事前に、調査票や調査員マニュアルを始めとした調査用品を受け取っていた。

なお、調査票及び調査員のマニュアル等は、以下のページに掲載されている。

<http://www.stat.go.jp/info/meetings/cambodia/documen2.htm>

研修は、5日間のうち4日間が講義形式で、黒板に貼付した拡大コピーの調査票を説明する方法で行われていた。この拡大コピーの調査票は、ビニール系の素材に印刷されており、その上に水性ペンで記入された文字は消去可能であった。この素材は、プロジェクター等の設備のない環境で行う研修としては、かなり有効な素材であると考えられる。また、講義は、講師の一方的な説明だけでなく、指導員・調査員に、実際に拡大コピーの調査票上に例を記入させるような方法もとっていた。講師及び指導員・調査員ともに、真摯な態度で研修にあたっているように見受けられた。

また、残りの1日は、実際に街に出て実習を行い、講義のおさらいを行っていた。

このほか、Mondul Kiri 州内及びプノンペンからの途中、人口センサスの実施を告げる横断幕（我が国のODAとJICAのロゴが入ったもの）を、要所々々で目にし、今回の人口センサスの広報活動が効果的であること、及び我が国の援助の良い宣伝にもなっていることを確認した。